

軍三 (47) B

明治二十七年七月二十三日

〇清艦の動靜

一七月二十五日午前八時四十五分釜山島海艦長より大臣官房宛

清艦隊三艘二十三日午前十一時牙山に居り信濃川丸監督

將校令到着通知あり

一七月二十日酒田丸監督將校發電參謀本部宛

去八二十三日午後二時仁川より發し本日着二十三日午前十時清國軍

艦鎮遠號仁川より發し牙山に向き本船連次牙山に清國軍艦

廣乙濟遠鎮遠並運送艦一艘碇泊あり

大本營

在記(物) 三七年七月二十日

○牙山、清艦船

二十日、牙山、武藏、嶺、岩、三、依、六、午、前、十、時、頃、清、艦、船、濟、遠、廣、乙、及、威、遠、三、艦、牙、山、灣、之、進、入、シ、午、後、十、時、清、國、軍、兵、艦、一、隻、亦、入、灣、ス、(亦、四、次)

大 水 營

黒切 〇 二十七年七月二十日

〇 清艦、動静

吳淞三目下、寰泰一復、戦國準備ヲ為シ、先ニ碇泊スルニ他ニハ  
招高局前ニ威靖、均知等、碇泊シテ時々官軍乗用ノ役ヲ為スルニ

大本營

定記物<sup>B</sup> 二十七年七月二十四日

○清艦、移動

二十四日午前七時清艦威遠、午後一時出港セリ是より先年威遠入  
港スルヤ直ニ在港、英艦、アキヤール号ソ訪ニ至ル時、幸々清國人數名  
同艦ニ乗シタル在出港ス

大本營

電 壺

(47)<sup>B</sup>

七月廿五日

○南洋艦隊ノ移動

上海 津川大尉

吳淞ニ於テホソクセリ(補足セ)南洋艦隊ハ皆出港セリ長江台  
湾等ニ至レリト高船ハ皆招致(原明)猶ホ英商ヨリ借り居レリ

大本營

軍三 (47) 8

明治三十七年七月二十五日

○清國艦船の移動

○七月二十五日午前十時五十分發上海寧川大尉了、伊地知少佐完

吳松、旅ノホソクヤリ (補足也) 南洋艦隊ハ皆本港ヲ長

江名湾等ニ至リト商船ハ皆根致 (碩明) 尚ホ英商ヲ借

展

大木營

電告 (47) B

七月廿六日

○清艦隊ノ出發

上海 黒井大尉

北洋艦隊十艘(?) 水雷インヅウ(引率?) 端艇ヲ悉ク陸ニ  
上ケ必死ノ覚悟ニテ二十六日威海衛ヲ出タ

大本營

作巻(切)B 三十七年七月子有

○清艦の動靜

七月二十六日大沽ヨ出航シテ仁川ニ来ルル 興二島ヨリ海中ニテ支那軍  
艦其他四國ノ船舶ニ逢テトノリ

○清艦ノ所在

口子有威海衛ヨリ出テタル 英汽船ハ  
衛ニ清艦十隻集オトリトノ事

(以上二件 高雄艦長報告抄出)

大本營



甲  
一  
47  
B

明治二十七年七月二十六日

甲  
一  
47  
B

劉公島 某

ヨリ

全七月二十八日

無誤照喚宛

濟遠ハ舵機ヲ損セシ爲メ廻引セシカ今ヤ零ホ修理ヲ加入其地ニ向ケ解纜セリ又威遠ハ歸リ來リシモ廣  
乙、操江ハ今ニ消息ナシ丁汝昌ハ十艦ヲ率テ二十六日東征ノ途ニ上レリ

大本營

押  
(47) B

牛細燭リ  
七月二十八日  
藝照瑛宛  
旅順ニ在ル水雷艇六艘ノ内ニ一艘ヲ防禦用トシテ常威海衛ニ回ハサレタシ

大本營

作巻<sup>(4)</sup> 三十七年七月二十九日

甲子) の北洋艦隊ノ情報

北京統統務司ヨリ在朝鮮統統航務司ニ緊要ノ文書ヲ齎シタル  
白河<sup>(イハ)</sup>号ハ大沽ヲ発シ于青<sup>(イナ)</sup>成海衛ニ寄港シタル由該船ノ報告ニ  
依<sup>(イ)</sup>レハ(中略)北洋水師ニ李鴻章ノ命令込テ直ニ出奔スト云フ

(七月三十日伊東司令長官報告抄出)

(注意) 右情報ハ七月二十九日午在摩耶行ヨリ持来ル

大本營

押  
カ  
B

丁汝昌ヨリ 七月廿九日

蔡廷幹

龍牙修繕終ラハ直子ニ威海衛ニ回航セラレタシ我水雷艇ハ何レモ小形ニシテ風浪ニ堪ヘ難シ恐ラク  
ハ次回ニハ帯行シ得サルヘシ弟ハ今七艦ニ艇ヲ率テ威海ニ回レリ機ヲ相テ再ヒ進取スヘシ

大本營

電告

(47) 80

七月三十日

○清艦長ノ答

長崎

八重山艦長

米國軍艦「モナカ」二十八日仁川港拔錨三十日長崎着港現  
 今仁川港碇泊外國軍艦ハ露國軍艦一獨逸軍艦一佛國軍艦一  
 米國軍艦一ナリ艦船ノ名ハ「シボ」(不明併以前或ハ前ノ意ナラン)ノ  
 通り英國軍艦「アアチヤ」ハ廿七日芝罘ヨリ仁川港ニ回艦セリ同  
 艦長支那艦長ニ問テ曰ク仁川港支那已ニ衝突ヲ生シタルニ  
 及(不明併シ何ノ意ナラン)「エヘニ出艦セサルヤ支那艦長答テ曰ク未  
 政府ノ命令ナキヲ以テナリト

大本營

軍四

(47) B

七月三十日

○清艦ノ動靜

上海馬場少佐

鎮遠威海衛ニ於テ大破損セリ  
隊仁川ニ向テ發セリ

(電文ニカ衛突カ原因不明)

北洋艦

疑スヤ報告

大本營

黒川(47) BA 三十七年七月三日

○清船、動静

昨夜八時頃、<sup>(子方)</sup>新砲台通、偵察ニ遣<sub>ミ</sub>タ<sub>ル</sub>モ<sub>リ</sub>、屏末ニテ  
曰<sub>フ</sub>、吳船新砲台<sup>(長江方面)</sup>、北方ニ当<sub>リ</sub>、蒙<sub>テ</sub>、鏡清保民  
三隻停泊、猶<sub>モ</sub>、蚊<sub>子</sub>砲艦三隻モ<sub>之</sub>ニ<sub>近</sub>リ、砲台ニカ<sub>リ</sub>テ  
ソ<sub>ノ</sub>、状<sub>ヲ</sub>、吳船砲台ト相<sub>接</sub>護<sub>ニ</sub>テ、長江好<sub>助</sub>へ<sub>ノ</sub>、船<sub>通</sub>ヲ  
此<sub>處</sub>ニ<sub>拒</sub>ス<sub>ル</sub>モ<sub>ノ</sub>、如<sub>シ</sub>ト

大本營

押一(ツ)B

統領劉盛休へ 七月上旬頃？ 藝照澳發電

朝鮮派遣ノ鎮遠、濟遠、平遠、超勇、廣丙五艦ノ内四艦ニハ歸航ヲ命ジ揚威、操江ノ二艦ハ牙山ニ留泊セシメラレタリ

大本營



新聞

(47) B

廿七年八月一日

(八月) 字林滬報

○北洋艦隊威海衛ヲ出ツ

芝罘通信西人ノ電信ニ云フ北洋海軍提督丁汝昌ハ定遠鎮遠及ヒ其他ノ軍艦合計十二艘ヲ率井八月一日午後威海衛ヲ發航セリ其目的地ハ朝鮮ナルヤ日本ナルヤ詳ナラスト嗣テ北方ヨリ上海ニ歸着セル怡和洋行ノ汽船乗組員ノ話ヲ聞クニ威海衛ヲ過クルルハ適我カ艦隊ノ出港ヲ認メムルカ丁提督ハ定遠ニ乘リ經遠來遠揚威超勇廣甲廣丙ノ六艘ト水雷艇四艘ヲ率井テ先鋒ト為リ左翼總兵林泰曾氏ハ鎮遠ニ乘リ致遠靖遠平遠威遠ノ四艘ト水雷艇四艘ヲ率井テ後續ト為リ各艦隊ヲ制リテ東行セリ想フニ朝鮮牙山ニ向フモノナラン

大本營

押一(47)B

劉含芳ヨリ

八月廿二日

龔照瑛宛

操江號ハ愈ヨ捕獲セラレタリ。清遠ノ修繕ハ凡ソ幾日ノ豫算ナルヤ電示ヲ乞フ。英獨兩國助力最モ勉ム。此時應サニ固ムヘシ。

劉含芳ヘ 全

龔照瑛發電

清遠ノ修繕ハ本月七日ニ完竣スヘシ。獨逸國軍艦當港ニ來ラハ貴官ノ照會アルヲ以テ船渠ニ於テ修繕ヲ許ストセリ。

公

大本營

電令

(47)  
B

八月三日

○清艦引返

上海派遣員

艦隊ハ引返ニ三十一日ニ威海衛ニ居ル由

大木 煥

軍五

(47) B6

八月九日

上海 東文三子

○ 清國艦隊ノ動靜

北洋水師六隻度々山東角附近巡視スル模様

大本

燃炭

2223

担  
(カ)B

李鴻章ヨリ 全八月十日 蔡廷鍇宛  
威遠鎮邊ハ即チ旅順ニ留メテ防備ニ供シ濟遠ノ修繕成ラハ同時ニ回航セシムヘシ

大  
木  
營

2224

甲  
乙

劉公島 丁汝昌ヨリ 八月十三日 龔照璵宛

艦隊ハ只今當地ニ回航シタリ、威遠鎮邊ニ命シテ速カニ石炭及飲料水ヲ準備セシメヨ、本官ハ不日旅順ニ赴クヘキニ付其節ハ艦隊學テ巡航スヘシ

大本營

軍五

(47) DB

八月十日

上海里井ヨリ

○清國艦隊ノ移動

北洋水師各艦 十四日ニ山海关方面ニ居テ石炭積  
居レリト伺ハム

大本營

作三 (47) 80

八月十五日

○清國偵察艦

赤城艦長所報

一八月十五日午後一時四十分頃露國軍艦ボナール号仁川ニ向テ航行  
 中ナリジユ群島沖ニ於テ二本樁ヨリタリトツラノ軍艦一隻ヲ見受  
 ケタリ彼ハ露艦ヲ認メシヤ否ヤ直ニ旋轉シテ去レリ彼ハ清國旗  
 ヲ掲ケ居タルヲ確實ナリキ之ヲ推思スルニ靖遠鉅遠ノ内ナラン  
 右ハボナール艦長ノ露國太平洋艦隊司令長官ニ報告スル  
 書面ニ似タル其中ニ記載シアリタルヲ一見セシ  
 一貴國汽船仁川へ出入スルハ甚タ危険ト云フベシト露國士官  
 ハ語レリ

明治二十七年八月廿九日牙山灣ニシテ

右ノ疑フベキ事ニ信ス

大木 啓



常備艦隊司令官坪井航三  
聯合艦隊司令官伊東祐亨殿

大本營

2228

新聞

(47)

廿七年八月十四日

(九月四日北清日報)

○北洋艦隊

八月十七日午後北洋艦隊(定遠鎮遠致遠靖遠揚威(或)超勇  
 經遠來遠平遠)福州製艦廠甲式、福州製水  
 雷捕拿艦都合十隻ヨリ成ルハ小隊縱陣ヲ作り北塘河口ニ  
 向テ進航シ其後外側十六点ニ回轉シテ大沽擱口堆ニ歸リ  
 此ニ投錨セリ高潮時ニ至ルヤ平式ノ石炭船大沽ヨリ出テ  
 艦隊ニ合シ又鎮東國南ノ二隻ハ河ヲ辭シテ山海関方面  
 ニ進航セリ艦隊ハ終夜擱口堆上ニ碇泊シ翌朝單縱陣ヲ作  
 リ徐口灣外ニ向テ進ミ三隻ノ平船之ニ隨ヒ十九日昧明旅  
 順港ニ着セリ又威海衛ニハ鎮式ノ二砲艦ヲ見ルノミ灣内  
 ニハ日本艦ノ隻影モナシ二十日英艦アラクリクシ、マリーキ  
 キエリ、セヴァーン、アムドロンテドハ芝罘ニ在リセシキユリ

大本營

方ニハ水雷演習ノ為メコトヲ岬邊ニ赴ケリ

大本營

電書

(47) 8

八月十八日

○清艦隊大沽ニアリ

北洋水師十艘昨日午後四時大沽附近ニ在リト聞ヒム

上海出張員

大本營

電告

(47) B

八月十八日

○清艦山海関ニアリテ石炭積込

北洋水師各艦十四日ニ山海関方面ニ居テ石炭積居レリト聞込ム  
又清國商船ノミス号ノ船体白色ニ塗替大砲一門機砲数門ヲ  
据付台湾ニ出帆

上海出張員

大本營

軍五

(47)

八月十八日

上海里井ヨリ

○清艦隊ノ動靜

北洋水師十艘昨日午在四時大沽附近ニアリト  
頃午迄ム

大木 啓

押  
(47) B

發信者受信者與不詳 八月二十日

八月十六日提督丁汝昌ハ軍艦十艘兵器彈藥及石炭ヲ積ミタル運送船五艘ヲ率テ旅順ニ來レリ各艦船ハ  
何レモ石炭ヲ積ミ淡水ヲ汲メリ多分明日頃ハ東夷ヲ我海面ヨリ驅逐スルノ目的ヲ以テ出帆スルナラン  
「ハン子ツケン」ハ本日旅順ニ來リ直子ニ定遠ニ飛組メリ同人ハ激戰一番前敵ヲ雪カンヲ期セリ

大  
本  
營

宗

(47) B 廿七年八月二十日

(芝采ヨリ)

○ 北洋艦隊ノ琴動

一 本月十四日威海衛ヲ出テ北洋艦隊ト同  
十八日午前直ニ「艦力」同所ニ飯味ヤス目  
下同所ニ「ア」軍艦ハ

起勇 鎮東 鎮北 鎮中

及ヒ莫雷艇三隻ナリ余ハ  
関方面ニ「ア」毛ノ、如ク  
尽ク太活山海

大本營



軍五

(47)  
B

八月三日

上海発

○清艦ノ動靜潜伏

夫ハ支那新聞ノ雜報ニ依ルモ信ズルニ足ラズ北洋  
水師目下直隸濟南南部ニ潜伏其他ノ清國軍艦  
ハ亦三ヲ出端スルノ勇氣ナシ

大木 燮

軍五

(47) B

八月二十五日

佐世係長官ヨリ

○清艦、動靜

上海ミゾウ電報

只今芝罘(即チ烟台)来書十日ニ威海衛起リ勇鎮  
東、鎮北、濟遠、鎮中外水雷艇三艘、碇泊其他ハ  
大沽方面ニアリ

大木 啓

軍六

(47)日

八月廿三日

上海特派員分

○ 北洋艦隊ノ動靜

北洋艦隊ノ本曜日(廿三日)威海衛ニ田航セリトモ  
采ヨリ電報アリ

大木

電書

(47) B

八月廿三日

○北洋艦隊威海衛ニ回航ス

北洋艦隊ハ未曜日(廿三日)威海衛ニ回航セリト芝罘ヨリ電報アリ

上海特派員

大本營

押  
(44)  
B

盛宣懷ヨリ

八月二十五日

蔡廷鍇ヨリ

李鴻章ハ漢納根ヲシテ海軍ノ三十サンチ半ノ彈丸八百個十吋口徑ノ砲等ヲ運ニ輸送セシム案スルニ三  
十珊知ノ彈丸ハ貴局ニ存スルナラン一孔黒餅藥ハ先ニ購買セシモ未タ到着セサルヲ以テ願クハ貴局ニ  
存スル處ノ大砲用一孔黒餅藥ヲ以テ早速威海ニ輸送セラレンヲ乞フ

張士珩ハ

月日不明

蔡廷鍇ヨリ

旅順軍械所貯藏ノ三十珊半砲彈ハ僅カ二百七十箇外國製一孔黒色火藥ハ四万余斤ナリ便船次第威海衛  
ニ回送スヘシ

丁汝昌ヨリ

蔡廷鍇宛

漢納根曰ク平遠ノ廿六珊知破裂彈ハ已ニ十個到着セリ

大本

押一(47) 卯

明治三十七年八月二十五日頃

張子珩乘電、起勇揚威十吋砲、一孔黑色藥、一孔黑色藥ハ旅順  
軍械庫貯存、三十冊砲用一孔黑色藥、徑ト大差ナリ性力  
モ相似タレハ二種通用シテ如何電商セラシ後ハトアリ右ニテ直  
シクハ貴答アリ次第廻送ス可シ

年月日缺

龔照璽

劉公島 丁汝昌宛

大本營

押  
(47) B

金丁 俊昌

八月廿七日

龍兵衛 瑛宛

貴下ト商議ノ上速カニ大小ノ水雷艇ヲ悉ク脩覆スルノ命ヲ奉ス右隊ニ母水雷艇ハ不日旅順ニ赴キ脩繕  
スヘク(六)大艇ノ人ハ己ニ配置シ終レリ(四)小艇ハ人員不足ナレハ補充セサルヘカラス尙此等ノ中脩繕ノ  
不完全ナルモノアラハ至急脩理ヲ加ヘラレントテ望ム

大  
木  
營

押一  
(44)

明治三十七年八月三日

拱北ハ砲十六及ヒ多数ノ弾薬ヲ積込ニ明日發射ス

八月二十七日發電

丁汝昌

蔡照璵宛

大本營



皇

(47) B 廿七年八月廿九日

○ 清國南洋艦隊

一南洋艦隊ノ中南環鏡清寰泰等ノ号松ヨリ上  
 流ノ長江中ニ碇泊ニテ長江警備ト稱シ敢テ  
 在ヲ詳ニセズ察スルニ艦ハ七月中旬末夕所  
 温州石浦等ノ避泊ヲ求メツ、アルヲ  
 福州ニハ實際一隻ノ軍艦モ無シ、是ハ  
 防禦ノ全無砲台ノ主勢力ニ依頼スルヲ  
 廣東艦隊ト言フト、是ハ廣甲乙丙ノ三艦ヲ除  
 月テ他ハ殆ント敵視ス、ノ軍艦ノ態ヲナサ

ス所謂カストム、クニ一サ一ノニニニテ廣東  
河ヲ上下スルノ他ニハ北ノ方汕頭附近迄航  
行スルノ精々ノコト我武裝商船ヲ以テ  
毛優ニ其死存存ヲ測スルニ定ルコト疑ナシ

押一 (47) 8

明治三十七年九月二三日

九月二三日六圖南八砲彈火藥等五六百噸ヲ積ミ振込ニ赴ク

八月二十七日發電

丁汝昌

龔照璣宛

大本營

電報

(47) 日

九月三日

○北洋艦隊ノ所在

北洋水師威海衛ニ在リ清國商船台湾航海益甚シスミス明後日  
頃ニマタマタ淡水ニ行ク船体煙突皆黒シ

上海通信員

大本營

軍文

(47) 甲

九月三日

上海通信員ヨリ

○ 清國軍艦、移動

北洋水師威海衛ニ在リ

大本營

押一(47)B

芝罘 道台劉合芳へ 九月三日

龔鼎璣發電

艦隊ハ今朝到着明日威海衛ニ向ヒ出帆スル筈

李鴻章へ 同

丁汝昌提督ハ艦隊ヲ率テ今朝到着セリ廣丙ハ船渠ニ出テ揚威代テ入渠セリ各軍ノ餉銀廻運ノ爲メ鎮  
海号ハ只今天津ニ向ヒ出帆ス

押一(47)B

丁汝昌ヨリ 同九月三日

龔鼎璣発電

揚威船渠ヲ出テ他ノ艦艇ト共ニ威海衛ニ回航セシメタル旨承知セリ

大本營

電戴

(47) B

九月六日

。北洋艦隊ノ所在

一昨日北洋水師十三艘威海衛ニ在リ

上海通信員

大本營

電貳

(47) B

九月八日

○南洋艦隊ノ北行

南洋艦隊二艘明日北方ニ向ヒ吳淞出帆スルヲ確ニ知レタリ

上海通信員

大本營